

「クリスマスの大きな恵み」

マタイ 2 : 1 - 12

堀田修一 21・12・19

I 神の先行する恵み

1. 「神は、実に、そのひとり子（御子イエス様）をお与えになった（クリスマスに、十字架の私達の罪の身代わりの死に）ほどに、世（罪人である私達）を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びる（永遠の刑罰を受ける、永遠に祝福の神から引き離される）ことなく、永遠のいのち（永遠に神から愛される命）を持つためである」ヨハネ 3 : 16
2. もしクリスマスがなかったら、私達の救いはなく、私達はとっくに滅んでいる。この世に、救い、希望の光、聖書、教会もなく、この世は 2 千年続いていないだろう。とっくに滅んでいる。しかし、神は、私達すべての人を愛し、救いを用意し、一人でも多くの方がご自分のもとに来るのを待っておられる。主の再臨を延ばしておられる。自分の心に救い主イエス様を迎える時、本当のクリスマスが私達の人生に始まる！※私の人生は 1974 年から変えられた。主イエスを心に迎えた事により。三位一体の神の驚くべき恵みを感謝しています！もし主に出会っていなかったら、私の人生は、滅びに向かう人生でした。今は、奇蹟的な神の恵みで生かされ、主に出会い 47 年間、素晴らしい救い主イエス様を、皆さんにご紹介しています。それが私の最高の喜びです！

II 救い主イエス様への 3 種類の応答。私達の応答は？

1. ヘロデ王。「ヘロデ王は動揺した」: 3。彼は自分こそユダヤ人の王と自認していた。本来なら、ユダヤ人の王は、王宮で生まれるはずである。自分の知らない所で「ユダヤ人の王」が生まれているとは！彼は常に不安を感じ、自分の王位を守るために自分の妻と三人の息子でさえも疑って殺してしまったほどの男であった。今も、ある国の指導者は自分の地位を脅かす人を殺している。歴史を見ると、どこの国でも、罪人の人間は、そのようにして来た。これは他人事ではない。私達の心にもそのような心がある。ヘロデの心には恐れと同時に、その王として生まれたメシヤ、救い主をひそかに殺してしまわなければならないという恐ろしい考えが浮かんだ。彼は早速、ユダヤ人の指導者であった「祭司長たち、律法学者たち」を集め（: 4）、メシヤ（キリスト、救い主）はどこで生まれるのかを質問した。彼らは即座に、ミカ 5 : 2 を引用して、「ベツレヘム（ヘブル語で「パンの家」の意。私達に「命のパンを与える救い主が生まれた場所」であると答えた。: 5, 6。ヘロデは自分の殺意が知られないように、「博士たちをひそかに呼んで」: 7、星の出現を確かめ、それから計算し、この「幼子」であるメシヤ、救い主の年齢を割り出そうとした。「私も行って拝むから」と偽り、見つけたら殺そうとしていた。「博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯の二歳以下の男の子をみな殺させた（ここから分かる事は、この時は、イエス様は、家畜小屋で生まれた赤ちゃんではなく、2 歳以下の幼子に成長されていた。場所も、11 節に、家畜小屋ではなく、「家

と記されている)。ヘロデは「ユダヤ人の王」と聞いて、自分の王位が狙われていると恐れたが、メシヤ、救い主は、単にユダヤ一国の王ではない。聖書は、メシヤ、主イエスを「王の王、主の主」(黙示録19:16)と呼んでいる。救い主イエスは地上のすべての国を支配する王の王、主の主である。私達の心の中にヘロデはいないだろうか？自分の心の王座に自分が座り続けたい。真の王、救い主は邪魔。自分勝手に生きたい。しかし、そこには真の救い、幸いはない。主を信じ心に主を迎え洗礼を受ける時、人生が変わる。主イエスが、人生のご主人、船長として私達の人生の行路を導いて下さる。安心である。赦しと回復の恵み。主が共におられる！

2. 祭司長たちや律法学者の反応。彼らは、ベツレヘムで救い主がお生まれになると旧約聖書のミカ5:2からすぐに分かった。しかし、ベツレヘムに行こうとしなかった。エルサレムからベツレヘムまでは、わずか8キロしか離れていない。何千キロもの遠い所から、異邦人である博士達が救い主を捜し求めてやって来たのとは、実に対照的。彼らは、聖書の頭の知識はあったが、その御言葉を日常の生活で実行しようとしなかった。私たちの心の中に祭司長、律法学者はいないだろうか？毎年、聖書の知識は増えても、御言葉と生活が分離している。主の御姿に少しも変えられてない。祈りたい。御言葉と御聖霊により、主の品性に変えられ続けながらクリスマスを迎えることが出来ますように！

3. 「東の方(アッシリヤ、バビロン方面)から来た博士たち(天文学者)」: 1の反応。
彼らの行動は、私達のあるべき姿を示している。

① 彼らは、ユダヤ人ではなく異邦人(ユダヤ人だけではなく、世界中の人々が救われるという励まし)なのにメシヤ、救い主を求めて「やって来た」: 1。主イエスは「すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(11:28)と言われた。救い主、主のもとに来る時、真の救い、真の心の平安、安らぎが与えられる！私は体験者として言えます。

② 博士達は、星に導かれてキリストを見い出した。博士たちの前にいるのは、一人の幼子だった。: 11。

しかし、彼らは、この幼子こそ、メシヤ、救い主だと信じた。光輝く星がそのしるしであり、証しだった。現在の私達をキリストに導くのは星ではなく、i 聖書の御言葉の光、ii 御聖霊(「教会に行きたい、主を信じたい」という志を与えたのは聖霊なる神。※私も不思議です。神の先行的選びの恵み)ピリピ2:13、Iコリント12:3。iii 教会(ライトハウス=灯台=迷える舟を安全な港に導く光)、一人一人のクリスチャン。神は、これらを用いて、迷える羊である私達を、救い主、主イエス様の所に導いて下さる。洗礼を受けても、道を外れ、迷う時も、主の御手は私達を離さず、連れ戻して下さる！

③ 救い主の「幼子を見、ひれ伏して礼拝した」: 11。私は不思議に思う。王の王、主の主であるキリストが、幼子の時に、博士達が、ひれ伏して礼拝するとは！彼らは信仰の目で幼子を見た。主を信じ洗礼を受けて主が、最も喜ばれるのは、私達が、神の溢れる恵みに感謝して礼拝を守り捧げる事である。

④「そして宝の箱を開けて、黄金（王である方にふさわしい黄金）、乳香（イエスの生涯の純粋さを表す乳香）、没薬（私達人間の罪の為の苦難、十字架の死を表す）を贈り物として献げた」：11。私達も、主が十字架で命を下された恵みに感謝し、余り物ではなく、心から恵みに感謝し、クリスマスに感謝の捧げ物を、また礼拝毎に、心からの賛美と捧げ物を喜んで捧げ主を礼拝したい！クリスマス（Christmas）という言葉の意味＝Christ（キリスト）とMass（ミサ、礼拝）の合成語。つまり、クリスマスとはキリストを礼拝する日です。

Ⅲ「別の道から自分の国に帰って行った」：12。私達も、主を信じ、洗礼を受け、毎週礼拝をお捧げする度に、これまでの歩みと「別の道」＝ますます「神に近づく新しい道」を歩みたい。先行的主の恵みをまず受け、主の品性に変えられ続ける道、神の愛に感動し自分自身を神に捧げる人生、自分に神が与えられた賜物を神の栄光と人々の救いと主の教会の建て上げの為に用いる人生に変えられる！私達が、まず神を愛したのではなく、神が先に私達を愛された恵みを感謝！※主に出会い、主を信じ、『別の道』、主イエスを主とする新しい人生に変えられた人々の証し→憎しみから愛へ。見下げから尊敬へ。ない物ではなく与えられている恵みを感謝。自殺願望、絶望から主と共に生きる希望へ。自分が主人から主イエスを自分の主人へ。人との比較でなく神に造られた自分らしい人生へ。素晴らしい救い主を人々に紹介する人生へ。絶望の死ではなく希望ある死＝天国へ。とても苦しい時も神に拠り頼める人生へ。感謝！